

授業改善書

科目名	学習心理学
担当者	時本 楠緒子

授業の概要

本講義では、保・幼・教員の各資格取得を志す学生を対象に、学習に関する身近な現象を取り上げながら、学習心理学の理論と方法、その応用について講義する。また、学習理論の延長上にある記憶や動機付け、さらには発達理論との関りについても学ぶ。授業の中で簡単な心理学実験を体験することで、学習心理学および心理学全般への理解を深めていく。

授業の問題点

対面形式の講義科目であるが、今年度は受講者数が 92 名とこれまでになく多く（昨年度は 18 名）、コロナを考慮して対面授業と遠隔授業を併用する形での授業となった。遠隔授業は昨年も行っていたが、A・B グループ交代制は初めて経験する授業形態であったため、4 月中は課題の提出を始め不具合が多くあり、落ち着くまでは授業運営を難しく感じるがあった。また、学生の課題への取り組みには個人差が見られ、課題以外にも興味を持った内容について自主的に調べて知識を吸収していく学生と、課題を提出することも覚束ない学生に、それぞれ適切に対応する難しさも感じた。

学生の授業満足度

今年度の受講生の学習態度の評価平均は、全体的に昨年度と同様、または少し低めであった。受講者数・授業形態ともに異なるため簡単に比較できないが、上記のような状況であったことを考慮すると、全体的に満足できる結果であり、学生と教員の双方が努力を重ねた結果が反映されていると考えている。しかしながら、学習態度のうち項目 2 「授業外学習をしましたか」および項目 3 「質問や発言をしましたか」の評価がともに 3 点台と前年に比べて低かった。これは授業や課題に取り組む姿勢には個人差が大きいこと、また遠隔授業で発言の機会が少なかったことなどが原因と考えられる。

授業改善の課題と方策

授業内容の理解度が学習態度を大きく左右するため、学期を通して学生の学習意欲を継続するための方法を模索してきました。今年度は遠隔・対面を問わず、すべての受講生に「その日の授業で印象に残ったこととその理由」・「質問・疑問・感想・提案など」をまとめてもらうようにし、その内容をもとに翌週に補足説明を加えるようにしたことが、理解力向上に役に立ったと感じています。毎回提出しなければならないことが一部の学生には不評でしたが、対面受講生には授業後すぐにスマートフォンからも提出できるようにしたことで、負担感が軽減されたようです。受講生とこのように密なやり取りができたのも Teams が利用できたおかげだと思っています。教室で発言できない学生も、課題という形でなら意見を述べるができることがあるため、来年度以降、通常の対面授業に戻った後も Teams の使用を継続させて頂ければと思っています。

その他

大学全体の平均値が大変参考になりました。